福井県の高速交通ネットワーク整備
～一般県道勝山インター線全線供用に伴う整備効果～

福井県 土木部 道路建設課

1　はじめに

福井県では、高速交通ネットワークの完結に向けて、高規格幹線道路である中部縦貫自動車道等の整備促進を図っております。福井県内の中部縦貫自動車道は、永平寺大野道路、大野油坂道路、油坂峠道路の3区間に分かれており、平成11年に油坂峠道路が供用され、平成29年夏前までに永平寺インターチェンジ～上志比インターチェンジ間の開通に伴う永平寺大野道路の全線供用を目指しております。

永平寺大野道路の供用によって、北陸自動車道から中部縦貫自動車道を通って、福井県の奥越地方まで高速交通ネットワークが構築される予定です。そのアクセス道路として、平成28年9月29日に国道157号大野バイパス、同年11月6日に一般県道勝山インター線（以下、「勝山インター線」と記載する。）、同年12月19日に国道364号永平寺インター道路が全線供用しており、高規格幹線道路と市街地を結ぶアクセス道路整備も順調に進捗しています。

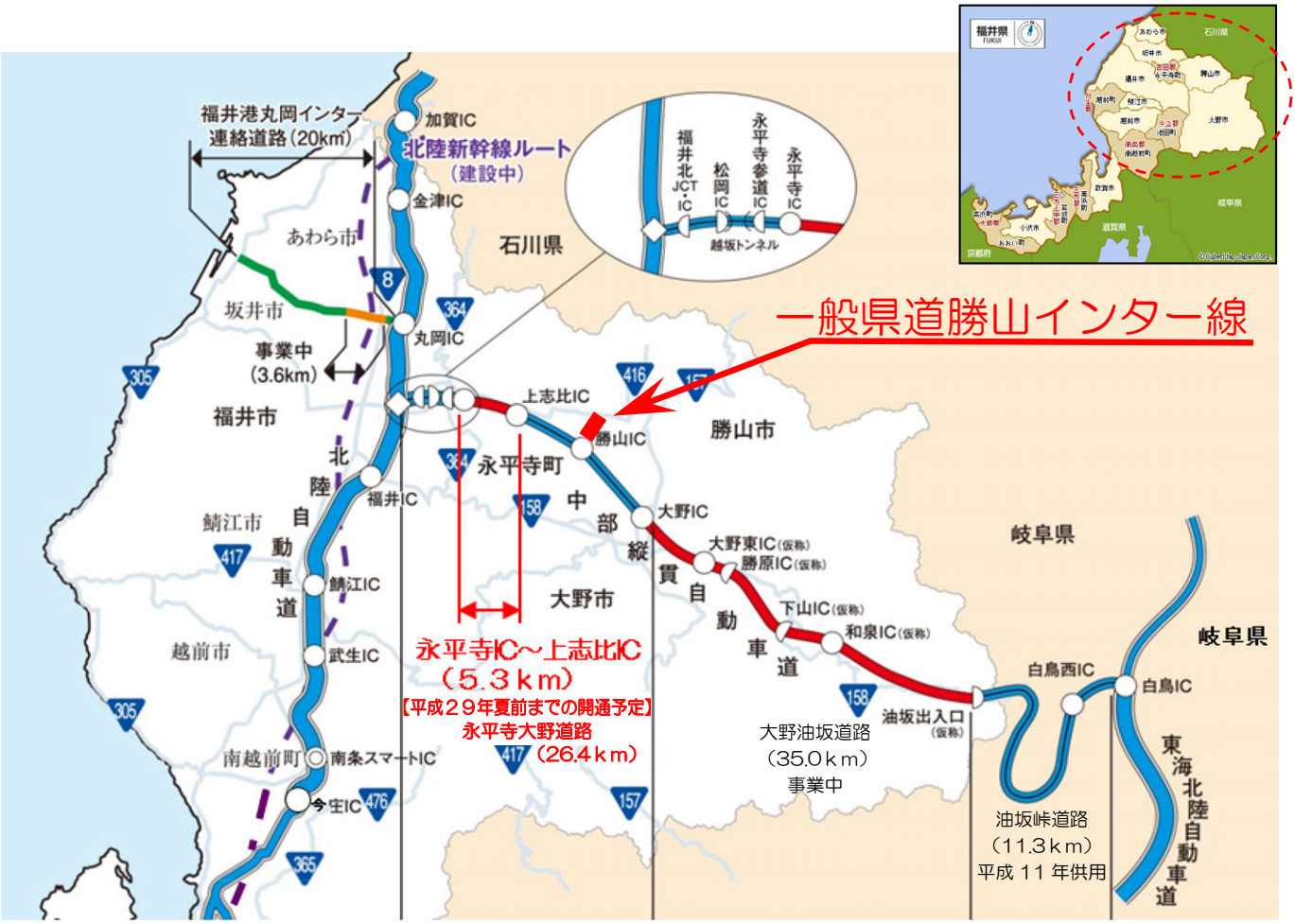

図1　福井県嶺北地方の道路交通ネットワーク

2　事業目的

勝山インター線は、中部縦貫自動車道の勝山インターチェンジから勝山市街地、県立恐竜博物館、スキージャム勝山、白山平泉寺など、奥越地方の主要観光地に至るアクセス道路です。また、一般国道 416 号や主要地方道勝山丸岡線、一般県道藤巻下荒井線に接続し、勝山市内における交通体系のネットワークの中でも重要な幹線道路として位置付けております。

しかしながら、これまでの勝山インターチェンジから勝山市街地に向かう道路（主要地方道篠尾勝山線）は、幅員が狭いことや、えちぜん鉄道の踏切と交差点が近く、自動車交通の円滑な移動が困難な状況でした。さらに、勝山市は冬季の降雪や凍結が多く発生する地域であり、降雪時には、除雪された雪などにより十分な幅員を確保できませんでした。

そこで、奥越地方における物流、交流の活性化を図るとともに、安全で円滑な交通を確保するため、平成 7 年度より勝山インター線の整備に取り組んできました。

図 2　勝山市内の道路交通ネットワーク

3　事業概要

事業区間	福井県勝山市鹿谷町本郷～荒土町松ヶ崎
事業延長	2,120m
事業期間	平成 7 年度～平成 28 年度
総事業費	約 55 億円
道路規格	第 3 種第 2 級
計画交通量	8,700 台 / 日
設計速度	60km/ 時
道路幅員	6.5m（2 車線、総幅 11.5m）
主要構造物	橋梁 3 橋（勝山恐竜橋 L=264.5m、鹿谷新橋 L=32.0m、落合橋 L=44.3m）

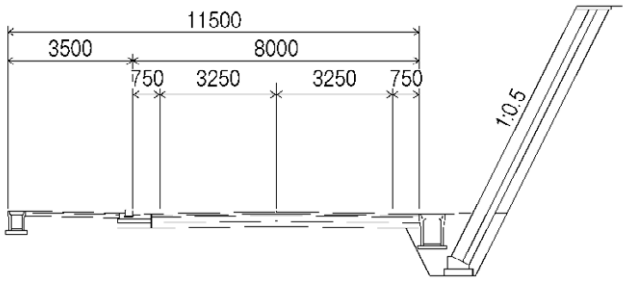

図 3　横断図

4　事業効果

中部縦貫自動車道永平寺大野道路のアクセス道路である勝山インター線が全線供用したことにより、高規格幹線道路から勝山市への道路交通ネットワークがつながり、早く、安全に往来することが可能となりました。それにより、地域活力の強化、安全な生活環境の確保、耐雪力の向上といった事業効果の発現が期待されています。

①　地域活力の強化

勝山インターチェンジから勝山市街地や市内の観光拠点との相互連絡機能が強化されました。図４や図５で示すように、勝山市における観光入込客数や県立恐竜博物館等の観光地の来場者数については、中部縦貫自動車道が部分供用されるごとに人数を伸ばしており、勝山インター線の全線供用により地域経済への更なる波及効果が期待されます。

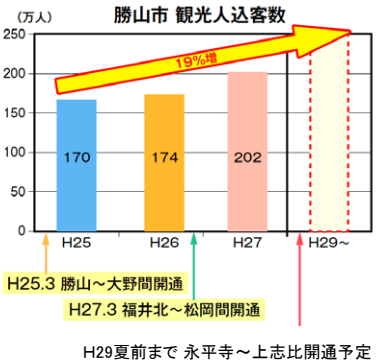

図４　勝山市の観光入込客数

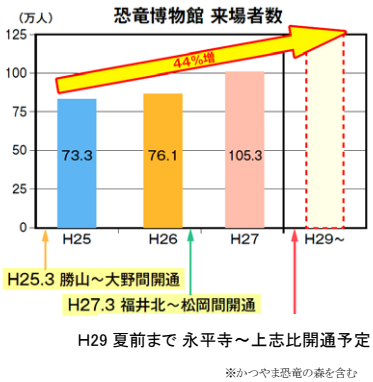

図５　県立恐竜博物館の来場者数

写真１　県立恐竜博物館内

②　安全な生活環境の確保

これまでの勝山市街地に向かう主要地方道篠尾勝山線は、踏切による平面交差があり交通の支障となっていましたが、それが解消され、車両の円滑な通行が可能となりました。沿線住民の安全で安心な生活道路の保全が図られるとともに、緊急時においても円滑な避難、救助活動、物資輸送のためにも重要な道路となりました。

写真２　（主）篠尾勝山線

写真３　勝山インター線

③　耐雪力の向上

主要地方道篠尾勝山線は、道路脇に除雪された雪などにより十分な幅員を確保することが困難でしたが、整備された勝山インター線では、車道の外側に広い路肩が確保されていることから、除雪作業の効率化、積雪時の交通円滑化を図ることが可能となりました。

写真４　耐雪状況　（主）篠尾勝山線

写真５　完成後の勝山インター線

５　事業の特徴

勝山インター線の道路整備を進めるにあたっては、次の２つの点について、構造物の設計や関係者協議などで十分配慮しながら事業進捗を図る必要がありました。

①　一級河川「九頭竜川」流域が国の天然記念物「アラレガコ生息地」の指定区域となっていること

②　恐竜と深い関係性のある地域であること

①　アラレガコ生息地

一級河川九頭竜川流域のアラレガコ生息地が国の天然記念物に指定されており、その生息地への影響を抑えることを求められ、整備計画を立案するにあたり、文化庁との協議、および現状変更等の許可に約１年の期間を要しました。また、橋梁形式を選定する際には、流水部に与える影響が小さい橋梁形式、工法とすることが必要となり、以下の橋梁形式としました。

（勝山恐竜橋）

橋　　長	264.5m
幅　　員	10.5m ～ 13.5m
橋梁形式	ポストテンション方式５径間連続箱桁橋
下部構造	逆Ｔ式擁壁ニューマチックケーソン工法

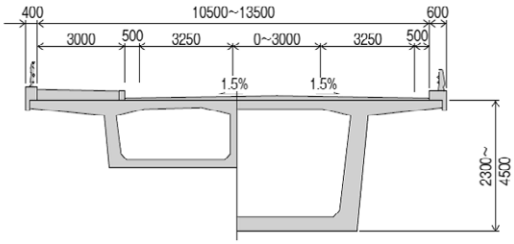

図６　横断図

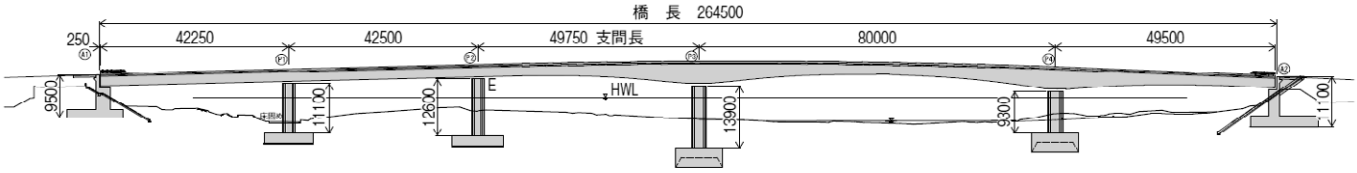

図７　橋梁一般図

下部構造は、基礎工法の中でも特に周辺環境への影響を小さくすることが求められたことから、ニューマチックケーソン基礎工法を採用しました。これにより、鋼管矢板基礎等の他工法と比較して施工時の占有面積を小さくし、地盤下の地下水等の影響を極力抑えました。また、上部構造についても、片持ち架設工法とすることで下部工の橋脚スパン長を長くし、流心部以外に橋脚を設置することで周辺環境への影響を抑えました。工事の施工の際には、河川の汚濁防止のために沈澱池や放流部にフィルターを設置するなど、アラレガコ生息地への影響を抑えながら工事を進めました。

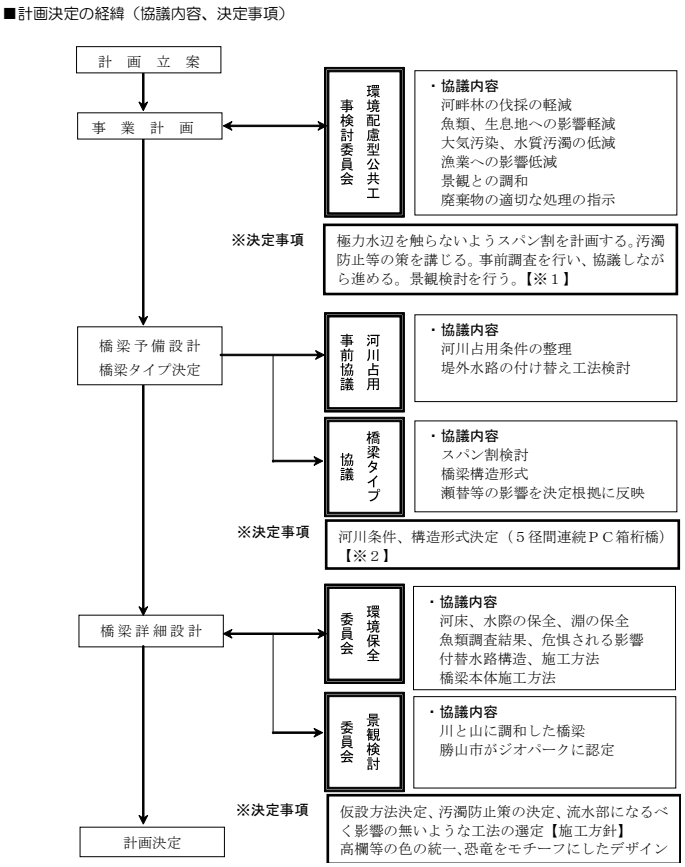

図８　計画決定までのフロー図

写真６　アラレガコ

写真７　沈澱池設置状況

②　恐竜との関係性

勝山インター線が存在する福井県勝山市は、「恐竜王国」と呼ぶにふさわしく、国内随一の恐竜化石の産生地となっています。平成元年から５ヶ年計画で化石発掘調査に取組み、さまざまな化石を発掘・採取しており、その数は日本で発掘された恐竜化石の大部分を占めています。日本で発見された新種恐竜７種のうち、５種は福井県で発掘されており、福井県勝山市は、日本の恐竜研究の中心として注目を集めています。特に、恐竜研究の拠点となっている福井県立恐竜博物館は、恐竜に特化した博物館の中では、世界で３本の指に数えられている博物館です。また、勝山市においても、平成 21 年 10 月に勝山市が日本ジオパークに認定され、「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク」として、市民や訪れる人々が勝山の地質遺産に触れて楽しめるような、ジオツーリズムなどの事業を推進しており、勝山市は恐竜と強い関係性のある地域性となっています。

勝山インター線は、中部縦貫自動車道と勝山市街地を結ぶ玄関口という位置的な環境であることから、橋梁の景観検討では上位計画である「福井県景観づくり基本計画」や「勝山市景観計画」を踏まえ、地域のシンボルである「恐竜」を意匠に取り入れる方向で検討を行い、福井県立恐竜博物館のように、森の中に潜む大きな恐竜のたまごをイメージとする親柱を設置しました。また、橋梁の名称についても、

地元の中学生から名称を募集し、末永く親しみを持ってもらえるよう「勝山恐竜橋」と決定し、市内小中学生に親柱への橋名を執筆してもらっています。

6　開通

平成 28 年 11 月 6 日に勝山インター線が全線供用され、当日は地元の 3 世代 6 家族を先頭に関係者の渡り初めが行われたほか、開通を記念したウォーキングイベント等も行われ、約 600 人の勝山市民らが完成したばかりの道路と勝山恐竜橋を渡るなど、盛大に祝福されました。

写真 8　開通式典

写真 9　親柱

写真 10　3 世代渡り初め

写真 11　ウォーキングイベント